

## Cookie でパーソナライズ あなたの意見は？

【物語編】

### ■学食

佳乃と春菜がスマホをいじっている。二人ともネットショッピングをしている。

春菜「佳乃～、このワンピース可愛くない？」

佳乃「どれどれ、、あ～良いね～。春菜の雰囲気ぴったりだね。」

春菜：思い出したように。

春菜「あ、そうそう。ネットショッピングと言えば、この間気持ち悪い事があったんだよね。」

佳乃「気持ち悪いこと？ なになに？ どうしたの？」

春菜「麦わら帽子が欲しくて、晴天市場で検索したのね。そしたら、いいのがあったから買おうと思ったんだけど、お母さんに急に呼び出されちゃってさ、その時は買えなかったの。」

佳乃「ふーん、あ、お母さんがその麦わら帽子を被ってたとか？ その偶然がちょっと気持ち悪いってこと??」

春菜「いやいや、そうじゃなくて。その日の夜にpeacebookを見ていたら、【麦わらぼうしをお探しですか?】っていう広告が出てきたのよ。ちょっと気持ち悪くない? peacebookで検索したわけじゃないのに、何でばれてるんだらうって? しかも、そんなに頻繁にログインしているわけじゃないのに・・・」

佳乃「ああ、そういうことね。確かに、よくあるよね。他の人にも麦わらぼうしの広告が出ているのかなあ?」

春菜「うん。他の人もなのか、自分だけなのか気になるよね。どういう仕組みなんだろう。」

二人、考え込んで・・・

春菜、ハツとして。

春菜「そういえば、その晴天市場のショップを見る時に、何かの許可を求められて、よく分からずに同意しちゃったけど、何か関係あるのかな??」

佳乃「ああ、Cookieの使用を同意するってやつね。最近多いよね。嫌だったら拒否すれば?」

春菜「うん、それぞれ、Cookieね。どんなものなのか分からないんだけど・・・サイトやアプリが使えなくなったら、そっちの方が嫌だから、全部同意しちゃってる・・・」

佳乃、怪訝な表情になる。

佳乃「全部同意してるの? 何も確認せずに大丈夫??」

春菜「だってー、分からないんだもん。佳乃はどうしてるの？」

佳乃「まあ、確かに私もよく分かってないんだけど・・・とりあえず、大手の会社のものは、オッケーしちゃってる・・・かな・・・」

二人とも、カメラ目線で。

佳乃・春菜「これって、大丈夫なんですか??」

## 【解説編】

### ■学食

天の声「はい、二人とも、大事なところに気付きましたね。最近はネット上でいろいろな情報が紐づけられて、個人の嗜好に沿って表示されるようになりました。これらが大丈夫かどうかを判断するには、まず、Cookieとは何かを知る必要があります。」

春菜「そうそう。私なんてよく分かってないから、そもそも良いかどうかの判断基準がないし・・・」

天の声「Cookieとは、Webサイトの訪問者の情報を一時的にWebブラウザに保存するための仕組みです。

これにより、個々の訪問者の識別が可能になります。本来の目的は、IDや閲覧情報などが記録されることで、訪問者が再びそのWebサイトを訪れた際にスムーズに情報を提供できるようにすることです。

二人ともオンラインショップで洋服を買うことがあると思いますが、一度ログインすれば、再読み込みの必要が無かったり、後日同サイトを訪問した際に再ログインしなくて済んだり、過去の購入物の履歴を確認できたりできますよね。」

春菜「なるほどそういうところにCookieっていうのが使われてるんですね。」

佳乃「ということは、もし盗まれたら、大変なことになりますね！」

天の声「実際、Cookieが盗まれて、なりすましなどに悪用されるという事件が報告されています。」

佳乃「なるほど。CookieはIDやパスワードと同じくらい重要な情報を含むんですね。」

天の声「その通りです。一方、別の問題も指摘されています。3rd Party Cookie（サードパーティークッキー）という言葉聞いたことがありますか？3rd Party というのは「第三者」という意味なのですが、想像できますか？」

春菜「サイトを見ていて、第三者・・・うーん。別のサイトにシェアするんですか？」

天の声「そうです。複数のサイトにまたがり、本来の目的以外に表示されるものがあると思うのですが、分かりますか??」

佳乃「本来の目的以外・・・あ、広告ですか？」

天の声「そうです。その広告などを配信する事業者が発行するCookieのことを3rd party Cookieと言います。パッと見では分かりませんが、広告とサイト本体は管理者が別なのです。

そして、この3rd Party Cookieは閲覧中のサイトにのみ紐づくわけではないので、複数のサイトを横断することができます。それによって、個人ごとの情報が蓄積されますので、自分の嗜好にあった情報が表示されるようになります。」

春菜「そういうことなんですね。だから麦わら帽子の広告がpeacebookに出てきたのかぁ。気持ち悪いって思っごめんなさい。」

天の声「いえ、その「気持ち悪い」という感覚は実は大事なのです。説明したように、個人の嗜好に沿った情報が提示されることで、利便性が向上することがあるかもしれません。しかし、注意が必要です。」

佳乃「ということは、個人情報とかですか？」

天の声「その通りです。1st party Cookie（ファーストパーティークッキー）も3rd party Cookieも結果的には個人情報を蓄積するものです。そういうサイトを利用するということは、それに同意しているということです。」

佳乃「え？同意していることになるんですか？そんなつもりありませんでした・・・」

天の声「どのようなサイトを見ているか、どんな商品を購入しているか、どんなキーワードで検索しているかなどを個人別に蓄積したデータが作られています。これをプロファイリングといいます。もしこれを、悪意のある人間が管理していた場合、悪用される可能性があるということなのです。」

佳乃「えっ、そんなことまで同意に入るんですか？それって法律的にはどうなんですか？」

天の声「これまで日本ではあまり規制されてきませんでしたが、世界の動向に合わせて、2020年に個人情報保護法が改正され、順次強化されています。先ほど、気持ち悪いという感覚は大事だと言いましたが、それは個人情報を守るという観点からなのです。その反面、プロファイリングの積極的な活用に賛同する人もいます。どちらが正しいとは言えませんが、仕組みを理解して、せめてCookie利用の同意を求められた時は単純にOKするのではなく、よく考えて判断することが重要です。」

佳乃・春菜「わかりました！！」